

### 3 種のメッセージにおける自転車利用者の交通安全意識の変化

1250502 広瀬倫太郎

指導教員 日道俊之

#### 研究背景

交通違反をなくすためのポスターや動画などでのメッセージによる説得は、あまりコストのかからないものとして活用されてきた。先行研究によると自転車の交通安全に関するメッセージでは、「～してはいけない」といった命令的な表現よりも、「～をするかはあなた次第です」といった放任的な表現の方が効果的だとされる。また違反駐輪を防ぐためには、「駐輪しないでください」と禁止するよりも、「ご協力ありがとうございます」と感謝を伝える方が行動を促しやすいことが分かっている。

#### 研究目的

放任的メッセージ、命令的メッセージ、感謝型メッセージのうち、より交通安全意識が向上するメッセージはどれか検証する。

#### 研究方法

Qualtrics でアンケートを作成しオンラインで調査を行った。参加者をランダムに 4 つの条件（コントロール群、放任群、命令群、感謝群）に分け、ながらスマホ運転をしている写真と、それぞれ一部が異なるメッセージを提示した。メッセージの提示前後で交通安全意識についての 4 つの質問（態度：～はよくないことだと思う、知覚行動制御：～は難しいと思う、道徳意識：～はするべきではないと思う、行動意図：～をしようと思う）を行い、条件間および提示前後の回答の差を分析した。

#### 分析結果

条件を参加者間要因、メッセージの提示前後の尺度を参加者内要因とする 2 要因混合分散分析を行った結果、知覚行動制御はすべてのメッセージにおいて交通安全意識が向上し、行動意図は放任的メッセージと命令的メッセージにおいて交通安全意識が向上した。態度、道徳意識では有意な差は見られなかった。

#### 考察・結論

行動意図において放任的メッセージと命令的メッセージの両方で交通安全意識が向上した結果として考えられるのは、平均年齢が先行研究より高く、メッセージの効果に差が見られなかったためであると推測する。また感謝型メッセージで交通安全意識が向上しなかったのは、メッセージに直接感謝の言葉が入っておらず、感謝型メッセージとしての設定が正確でなかったためであると推測する。